

ボーダレス・アートミュージアムNO-MA企画展

# Borderline



①展覧会チラシ

本展のタイトルである「borderline ボーダーライン」という言葉には、「境界」「境目」という意味があると同時に「どちらともいえない」「曖昧な」といった意味が含まれています。本展では、美術作品を作ろうとせずしてできた作品や、形状は使用用途を思わせるのにその用途がない作品、また、自分が使用するためだけに作ったものが美術作品として評価を得た作品や、使用用途を無くして作品にしてしまったものなど、用途とは何なのかを問いかけてくる作品を展示します。アートなのかクラフトなのか、またはそれ以外のものなのか——。カテゴリーに当てはめることができないもどかしさと、その境界の不明瞭さを感じ始めたとき、あなたはものの多様さを知るでしょう。そして、人が生活の中に機能性のみではない何かを追い求めているその想像力豊かな欲求を感じずにはいられません。

## 展覧会概要

- 会場 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA（滋賀県近江八幡市永原町上16）  
 会期 2024年3月9日(土)～6月16日(日)  
 開催時間 11：00～17：00  
 休館日 月曜日（祝日の場合は翌平日）  
 観覧料 一般300円（250円） 高大生250円（200円）  
 ※中学生以下無料、障害のある方と付添者1名無料（ ）内は20名以上の団体料金  
 主催 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA  
 社会福祉法人グロー（GLOW）～生きることが光になる～  
 後援 滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会  
 協力 静内桜風園、日高アールブリュットネットワーク、るんびにい美術館、やまなみ工房、近江八幡観光物産協会、マエダクリーニング仲屋店、しみんふくし滋賀

## 【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】

社会福祉法人グロー 法人事務局地域共生部（ボーダレス・アートミュージアムNO-MA）  
 担当：橋本・赤澤 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837-2  
 TEL：0748-46-8100 FAX：0748-46-8228 MAIL：hashimoto-etsuko@glow.or.jp

## ■ 展覧会の見どころ

### ◆ アートなのかクラフトなのか、またはそれ以外のものなのか——

本展では、美術作品を作ろうとせずしてできた作品や、形状は使用用途を思わせるのにその用途がない作品、また自分が使用するためだけに作ったものが美術作品として評価を得た作品や、使用用途を無くして作品にしてしまったものなど、用途とは何なのかを問いかけてくる作品を展示します。



山田浩之  
壁を取りはずして向こうを見る 2021年

### ◆ 「もの」の見方やひらめきを感じるイベントを開催

本展キュレーターのアラオ多枝子によるギャラリートークを3/9（土）、4/7（日）、5/25（土）の3回開催。カテゴリーに当てはめることができない曖昧な作品の魅力について語ります。

また4/20（土）には、アートグラファターの村井拓人さんと出展者の山田浩之さんによる、「対話型鑑賞でああなたのひらめきスイッチを入れてみよう」を開催します。参加者同士で対話をしながら作品を鑑賞したあと、村井さんによる講義で気づきや学びを得られます。

### ◆ #曖昧なボーダーライン な「もの」を募集して展示

「もの」の見方を少し変えてみませんか？

例えばフライパンを叩いて太鼓にしたり、コップをひっくり返して人形の椅子にしたり。あなたの発想がものを二面化させ、もののカテゴリーを曖昧にしていきます。そんなひらめきを実現させた写真や「置物みたいな湯呑み」、「オブジェにしか見えないポスト」など、二面性を感じた「もの」の写真を「#曖昧なボーダーライン」をつけてSNSに投稿していただき、プリントして展示します。



山崎菜那 タイトル不明 2022年

## ■出展者

### 下田 賢宗 Shimoda Takahiro 1983- 岩手県在住

下田さんの作品は、白い服に絵が描かれたものです。描かれてある絵をなぞるように、糸で縫われているところもあります。なぜ、彼は服に絵を描いたのでしょうか。

彼は 15 歳のとき、イクラの柄のパジャマがどうしても欲しくなりました。周りにいた人たちは店に探しに行きましたが、そんな柄のパジャマは売っていませんでした。赤い水玉模様の布でパジャマを作ることも考えましたが、そんな柄の布も見つかりませんでした。そこで、白い服をマジックや絵の具と一緒に下田さんに渡すと、彼はあっという間にイクラの絵を描き上げ、欲しかったパジャマを手に入れたのです。本当に、心から欲しかったのでしょうか。

あなたはどうしても欲しいものがあるけれど、何らかの理由で買うことができなかったとき、それを作ってしまうと考え、実行したことはありますか？



②イクラのパジャマ 1999年

### 高丸 誠 Takamaru Makoto 1970- 北海道在住

これは、誰が見ても眼鏡です。眼鏡に見えます。実際にかけることもできます。これを作った高丸さんは、ほぼ毎日自分で作った眼鏡をかけています。では、眼鏡とは何のためにあるのでしょうか。視界がぼやけたり、遠くを見ることのできない人の視力を上げるためのものです。ですが、この眼鏡にはレンズがありません。彼は、ひとつの眼鏡を、だいたい 15 分で作ります。縁が太いものや細いもの、レンズがつくはずの部分が大きいものや小さいもの。彼は、セロハンテープを丸め、重ねて形を整え作っていきます。



③無題 制作年不詳

視力をあげるためではないのなら、彼はなんのために眼鏡を作り続け、毎日かけているのでしょうか。本来の用途とは違う、彼の特別な理由があるのです。彼は今日も眼鏡を作っています。

### 臼井 明夫 Usui Akio 1939-2021 長野県

少しいびつな形をしたかわいらしい箱は、ひとつひとつ形が違います。臼井さんは、どんなときにどう使うか、使う人にとっての使いやすさを考えながら作っていました。段ボールや色画用紙、衣類用のゴムや針金、ペットボトルのキャップなどから作られています。人が使わなくなったものをもらったり、散歩しながら集めてきたものです。彼は、ものさしは一切使いません。そのせいか引き出しなどの形はいびつですが、引いてみるとなんの引っ掛かりもなく、ちょうどよい開け心地です。彼は箱を作っては、周りの人にあげていました。蓋を開けるとまた蓋が出てきたり、箱の中と外の色を変えたり。彼は人に贈るものだからこそ、丁寧に、丁寧に作っていたのかもしれない。



④usui\_box06 2003-2007年

## 山田 浩之 Yamada Hiroyuki 1970- 滋賀県在住

NO-MAの前庭に展示されている大きな壺の形をした作品と、1階の3つの作品は、山田さんの陶芸作品です。これらはきっと、あなたがこれまでに見たことのない形をしているでしょう。山田さんはなぜこんな形の陶芸作品を作ったのでしょうか。

この3つの作品は、実はスピーカーなのです。スピーカーは音を出す機械です。山田さんは、音がどんな道を通ったら楽しいかを考え、この形を作りました。つまり、目に見えない「音」というものの形を表現したともいえます。音の通る道を、目で、耳で感じてみましょう。



⑤CAVE340 BIG FOOT 2023年

## 山ノ内 芳彦 Yamanouchi Yoshihiko 1956- 鳥取県在住

あなたは木を、じっと見つめたことはありますか？私たちが学校や仕事に通う道や家の近所の公園など、日々の生活の中で何度も木を見かけているはずですが、でもきっとほとんどの人が、立ち止まって木を見つめたことはないでしょう。

山ノ内さんが手がける木は、伐られた庭の木や、捨てられた木などです。彼はそれらの木の中に生命の形を感じ取り、彫り出そうとします。そうして出てきたのが三本足の〈木星人〉でした。彫られたものは椅子になったり、テーブルになったり、寝台になったりします。彼の作る家具に座ったら、私たちも木の生命を感じることができるとはでしょうか。



⑥クスノキの寝台 2022年

## 山崎 菜那 Yamazaki Nana 1994- 滋賀県在住

シャツやソファから、カラフルなたくさんの長い毛が生えているかのよう。山崎さんの作品は、糸を針に通し、玉止めを作って針を刺し、そして糸を切るという、気が遠くなるほどの繰り返しの縫う行為によって仕上げられています。

彼女は絵も描きます。服の模様が違ったり、髪型や髪留めのデザインが違ったりする人間の絵をたくさん、一枚の紙に描き込みます。彼女は人の個性を、そのファッションの違いから感じ取っているのかもしれませんが。彼女の縫ったシャツも一枚一枚、まったく違う様相になっています。



⑦Yシャツ 2018年

## geodesign〈ジオデザイン〉

豆腐、お弁当に入っている醤油さし、レタス……。どれもがそのまま家の冷蔵庫の中にあるようなものばかり。実はこれらは、文房具なんです。

株式会社ジオは、geodesign〈ジオデザイン〉というブランドを立ち上げ、このような面白い商品を作ってきました。最初に作ったのは「豆腐一丁」という付箋紙。木綿と絹ごし、その肌触りや質感を紙で表現し、パッケージは豆腐といえば誰もが思い浮かべるようなデザインに仕上げられています。

私たちは見た目の形から、それがなんであるかを認識しています。それを驚きとともに砕いてくれるこれらの文房具は、私たちの生活を楽しく変化させてくれます。



⑧〈香る〉醤油鯛ペン（醤油いろ）

## 関連イベント情報

### ■投稿してみよう

「もの」の見方を少し変えてみませんか？

例えばフライパンを叩いて太鼓にしたり、コップをひっくり返して人形の椅子にしたり。あなたのその発想がものを二面化させ、もののカテゴリーを曖昧にしていきます。そんなひらめきを実現させ写真を撮って、SNSに投稿してください。「置物みたいな湯呑み」、「オブジェにしか見えないポスト」など、二面性を感じたものの写真でもOK！投稿された画像はプリントしてNO-MAで展示します。

募集期間：2月10日（土）～6月9日（日）

投稿方法：「#曖昧なボーダーライン」でInstagram、X（旧Twitter）、Facebookで投稿。メールや郵送も可。詳細はウェブサイトをご覧ください。

### ■ギャラリートーク

本展キュレーターのアラオ多枝子が、カテゴリーに当てはめることができない曖昧な作品の魅力について語ります。

日時：3月9日（土）、4月7日（日）、5月25日（土）14：00～14：30 ※申込不要

講師：アラオ多枝子（本展キュレーター）

会場：NO-MA

参加費：観覧料 ※既に展覧会をご覧の方はチケットの半券をご提示ください。

### ■対話型鑑賞であなただのひらめきスイッチを入れてみよう

アートグラファターの村井拓人さんと出展者の山田浩之さんによる、「対話型鑑賞であなただのひらめきスイッチを入れてみよう」を開催します。参加者同士で対話をしながら作品を鑑賞したあと、村井さんによる講義で気づきや学びを得られます。

日時：4月20日（土）13：00～15：00 ※要申込

講師：村井拓人（TAKT代表／アートグラファター）、山田浩之（出展者／陶芸家）

会場：NO-MA近隣で開催予定

参加費：無料

### ■山田さんと遊ぼう 沖島ごっこ

出展者の山田浩之さんと琵琶湖に浮かぶ自然豊かな沖島に渡り、島内でワークショップを行ないます。

日時：5月18日（土） ※要申込

講師：山田浩之（出展者／陶芸家）

会場：沖島

参加費：無料 ※乗船料（往復1,000円）が別途必要です。

※時間、集合場所は決まり次第、NO-MAオフィシャルサイトに掲載します。

## ■一枚のシャツに縫い重ねてみよう

一枚のシャツにみんなで糸を縫い重ねて、出展者の山崎菜那さんの「縫い」を体験するワークショップです。

日時：会期中常時

会場：NO-MAライブラリースペース

## ■障害などを理由に、NO-MAに行くか迷っている方へ

「さわって楽しめるものはある?」「これが苦手なんだけど大丈夫?」「静かにしなくてもいい?」など、あなたやあなたの周りの方が気になっていることや、必要なサポートを教えてください。合理的配慮の観点から、できる限りの情報提供やスタッフによる対応を行います。なお、本展では、見えにくい方や聞こえにくい方、字を読むのが苦手な方に向けての「情報保障」や、さわって楽しむ展示物を準備しています。



詳しくはQRコードから  
ご確認ください

## 広報用画像申込書

社会福祉法人グロー 法人事務局地域共生部  
(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA) 広報宛  
FAX : 0748-46-8228

本展覧会広報用素材として、作品画像を用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、F A Xまたはメールにてお申し込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご確認ください。

- (1) キャプションは、作家名、作品名、制作年を必ず表記ください。
- (2) 作品のトリミング、文字載せはお控えください。
- (3) 本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認のための校正、掲載誌（紙）、DVD、CD 等をお送りください。

媒体名：『

』

種別： TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー  
ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日：

御社名：

ご担当者名：

Eメールアドレス：

@

(〒 - )

ご住所：

お電話番号：

FAX：

<input type="checkbox"/>	①企画展「Borderline」チラシ画像
<input type="checkbox"/>	②下田 賢宗 イクラのパジャマ 1999年
<input type="checkbox"/>	③高丸 誠 無題 制作年不詳
<input type="checkbox"/>	④臼井 明夫 usui_box06 2003-2007年
<input type="checkbox"/>	⑤山田 浩之 CAVE340 BIG FOOT 2023年
<input type="checkbox"/>	⑥山ノ内 芳彦 クスノキの寝台 2022年
<input type="checkbox"/>	⑦山崎 菜那 Yシャツ 2018年
<input type="checkbox"/>	⑧geodesign<ジオデザイン> <香る> 醤油鯛ペン (醤油いろ)
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	

**【問い合わせ / 掲載用写真貸出・取材】**

社会福祉法人グロー 法人事務局地域共生部 (ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)

担当：橋本・赤澤 〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 4837-2

TEL : 0748-46-8100 FAX : 0748-46-8228 MAIL : hashimoto-etsuko@glow.or.jp